

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	財津 倫子	職名	講師	学位	修士 (看護学) (広島大学 2005 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育学→ ・成人看護学→ 	看護大学生、臨地実習適応感、 アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研究課題
<p>看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめて投稿した。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について再度調査を行い、結果を論文にまとめて投稿する予定である。</p> <p>成人看護学 (急性期) に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。</p>

担当授業科目
救急・クリティカル看護学演習 (後期：看護学科) 成人看護学演習 (前期：看護学科) 成人急性期看護方法論 (後期：看護学科) 成人急性期看護学実習 (後期：看護学科) 看護総合実習・演習 (前期・後期：看護学科) 看護研究の基礎 (前期：看護学科) 健康教育論 (前期：看護学科) 看護学 (後期：栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 救急・クリティカル看護学演習 】4年生後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で 質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。 2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた (6 コマあるうちの 3 コマは、対面での演習が可能であったが、残り 3 コマは COVID19 感染者が学内で認められたため、遠隔授業へ変更)。
<p>授業科目名【 成人看護学過程演習 】3年生前期</p> <p><講義></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても解説 (遠隔) する。 <p><看護過程></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。 2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明 (遠隔) を行い、全員が理解できるよう努めた。 3. 遠隔でのグループワークであり、クラスルームを出入りし、グループの進行状況を確認しながら、また

質問に答えながら、それぞれのグループワークでの学びが深まるよう指導した。

4. グループで記録提出させるため、指導はグループに対して行った（遠隔）。
5. 中間評価とし、遠隔にて事例を読みアセスメントし計画立案をさせるテストを実施した。

<看護技術：周手術期の看護>

1. 術直後の観察の実際と観察の根拠やポイントの講義（遠隔）
2. 実習室より遠隔にて、JVAC ドレーン管理方法の解説・深部静脈血栓症の予防法の解説・腹帯の作成から使用方法の解説を行った。
3. 実技テストではなく、筆記テスト（グーグルフォーム）にて評価した。

<ストーマ造設時の看護>

1. 実習室からの遠隔での講義（外部講師）
2. ストーママーキング方法・ストーマ交換・便破棄方法の演習（遠隔）

授業科目名【 成人急性期看護方法論 】2年生後期

1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。
2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な箇所を自身でチェックできるよう工夫した。
3. 課題は、そのまま3年生の前期（看護過程）につながるものとし、学びがつながるよう配慮した。

授業科目名【 成人急性期看護学実習 】3年生後期～4年生前期

1. COVID19により臨床実習が行えない状況での実習であった。事例を8事例準備し、学生に患者を選ばせ実習に臨む方法とした。
2. 臨地実習の流れと同様の流れを組み（外来→入院→手術→術後→退院指導）、DVDや実習病院協力のもと、作成した動画などを活用し、大学の教室や実習室にて実習を行った。
3. 対面実習期間は、2020年10月5日（月）～11月6日（金）、2021年1月12日（火）～1月13日（水）であり、その他の期間は、全て遠隔実習であった。
4. 事例は、ABCDEFGHとしたアルファベットの使用であるが、全て実際に存在する患者様の情報であり、情報の取り扱いには十分注意した（USB管理）。USB以外の管理場所は、クラスルーム内のドライブで記録物は管理し、メール送信は一切行わなかった。実習終了後は、USBデータを含ますべての情報を削除させ、教員も削除した。
5. 対面実習が可能であれば、学生自身で人形に創部やドレーン・点滴・尿道留置カテーテルなどのルート類を装着させ、術直後の観察・清拭・離症の実践を練習後、技術チェックを行った。遠隔実習の場合は、学生のコメントで教員が動く方法を取り（学生の指示が無ければ動かない）、人形の作成から清拭・離症までを同じように学べるように工夫した。
6. 人形からはデータは取れないため、情報収集（会話）の際は、教員が患者役となった。検査データやフローシート等は、クラスルームに日程に合わせUPする形をとった（模擬電子カルテ）。
7. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。
8. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をすべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にした。
9. 対面実習における記録物の提出は、最終日の16時で問題なかったが、遠隔実習の際は、レターパックでの記録提出（郵便ポストの回収状況も踏まえ、土曜日の消印有効）とした。

授業科目名【 看護総合実習・演習 】4年生 (通年)

1. 事前学習として「血糖自己測定」「インシュリン自己注射」「輸液中の清拭及び寝衣交換」「酸素療法・排痰法・呼吸法」「12誘導心電図」「気管挿管の介助・チューブ固定・口腔ケア及び吸引」「心電図モニター」「輸液ポンプ」目的と方法と注意点と根拠を課題とした。
2. COVID19禍にて臨地実習は行えなかったが、大学の実習室を使用し対面実習を行った。事前課題として学生が学んできたことを全て実践し学べるよう日程調整した。患者は、急性期では人形で、慢性期では学生自身が患者役となり演習を行った。技術演習時間を設け、その後、教員の前で実践し、教員はチェックをする。を、援助技術ごと繰り返した。また、実践後の後片付けも看護師の大切な仕事であり、その体験もできるように配慮した。
3. 文献研究・ケースレポートにおいては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、週に1度ゼミ日(遠隔)を設けて、完成まで指導を繰り返した。
4. レポート作成終了後、パワーポイントで(10分)発表できる資料を作成させ、発表会を開催(遠隔)する(質疑応答5分)。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。

授業科目名【 看護研究の基礎 】3年生前期

1. 科目の主担当の教員が講義(遠隔)を行い、それを受けた形でグループワーク(遠隔)をおこなった。
2. 研究テーマの選定から、論文検索、研究計画書の作成、依頼文・承諾書・調査票の作成、実践、データ集計、結果の分析、まとめ、発表までをグループワーク(遠隔)し、その助言を行った。講義時間内ではまとめきれない内容については、学生と話し合い、時間外に指導を行った。

授業科目名【 健康教育論 】2年生前期

1. 遠隔にて講義を行った。理論の講義から指導案・パンフレット作成、発表(遠隔)までの実践を行った。
2. 2年生が対象であり、パンフレットの構成を考えることは、まだ難しいと考えた。事例を提示し、どのような項目でパンフレットを作成するかはあらかじめ伝え、その項目内容で個別性をふまえることのように説明をすれば相手が理解しやすいのか、相手にわかりやすくするためにはどのような工夫が必要かを、自らで考えて気づくことが出来るような授業とした。またパンフレットを作成するだけでなく、指導を受ける側(患者体験)も経験させ、客観的に自己を振り返る機会(自己評価表の配布)を設けた。

授業科目名【 看護学 】3年生後期：栄養学科

1. 看護の歴史・理論・看護の定義・生活者として人間について・多職種チームとしての情報共有について解説した。
2. オムニバスで、小児・慢性期・急性期・老年・精神・在宅のそれぞれの担当教員が担当領域の看護について解説した(成人急性期看護学担当：胃がんの手術を受ける患者の看護を解説)
3. 最終日には、看護の役割と看護師と栄養士との協働の在り方をレポートの整理し、発表会を行いディスカッションし、学びを分かち合う良い機会となった。
4. オムニバスであり、評価点は担当教員がレポート課題などで評価し、その評価点を合計する形で算出した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護管理学会	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2004年12月～現在に至る
日本運動器学会(日本整形外科看護研究会より改名)		2005年6月～現在に至る
日本看護科学学会		2007年3月～現在に至る
日本看護学教育学会会員		2015年12月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<p><u>3年生ゼミアドバイザー(2019年4月1日～継続中)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生を4クラスに分け、名簿を作成。それぞれのクラス委員長を決定後、連絡網の作成。 2. 前期及び後期に1回ずつ担当クラスメンバーに面接（遠隔）を実施。 3. COVID19禍における遠隔授業中の学生に対するアンケート調査を実施し、現状を把握し対応した。 4. 各論実習前に模試を遠隔で実施。 5. 11月に、保護者懇談会（遠隔）を実施（COVID19禍における講義・演習・実習をどのように実施しているかを説明・模試結果報告・就職活動について） 6. 各論実習期間中に担当クラスの学生に問題があれば、その都度対応（保護者を交えての面談等） 7. 3月に各論実習後知識確認模試を実施。

教育経費予算配分委員会 (2019年4月1日～継続中)

1. 当該年度予算について
 - 1) 5月に、5月1日現在の学生数によって決定した確定シーリング額を会計課よりメール報告を受ける。
 - 2) 6月末までに2020年度の確定予算を会計課に提出した。
 - 3) 学科内の予算執行は、実習関連以外は可能な限り11月末までに終了するよう8月の学科会で依頼した。
2. 翌年度予算について
 - 1) 8月の学科会議で翌年度の予算計上の依頼を行った。
 - 2) 各領域から提出された予算を確認して、暫定シーリング額内に収まるように調整した(調整する際は、前年度と購入物品の相違や金額を確認し、大幅に違いがある場合、予算作成者へ直接確認をおこなった。消耗品については、文具は定価の7割、医療・実験用は定価の9割がけで購入可能であるため、実質金額は、それぞれ×0.7、×0.9で計算しているはずであるが、そのように計算されていないものに関しては、再計算した。
 - 3) 2021年度暫定シーリング額におさまるよう、調整・話し合いを行った。
 - 4) 2021年度の暫定シーリング額に調整し、暫定シーリング内におさまった2021年度の予算書を10月30日(金)に会計課へ提出
3. 委員会の開催について
委員長選出会議のみ対面で会議が行われ、その後リモートにての開催あるいは、メールにて意見交換が行われた。
4. その他
会計課より、予算内容を整理するフォーマットが提示され、そのフォーマットに合わせ、2021年度の看護学科予算表を作成した。

BLS 受講調整 (2019年4月1日～継続中)

1. 受講料は、前期の学費へ追加納入いただくこととしていたが、COVID19の状況を踏まえ、後期の学費で追加納入いただいた(会計課へ3月に受講者名簿をメール送信した)。
2. 3月初旬に博多トレーニングセンターの担当者に連絡し、受講日の調整を行ったが、COVID19の影響で日程を2度変更する。
3. 実習室の予約及び施設使用願いの提出
4. 受講者の名簿作成(英語記およびメールアドレスを入れたもの)
5. 教材と案内書が博多トレーニングセンターより郵送されてくるため、午前班、午後班の通達も兼ねて教材を学生に配布(ゼミごと)。
6. 就職試験と受講日が重なる学生が報告に来るため、博多トレーニングセンターへ欠席の連絡を入れる。学生には、直接トレーニングセンターで受講できる手続きについて説明した。
7. 受講日当日は、8時30分からの開始となるが、当日にBLS人形等の搬入があるため、7時から搬入が開始される。体温測定及び出欠確認はインストラクターの方が実施くださった。欠席者・遅刻者へは教員が連絡しなければならないが、2020年度は欠席者・遅刻者はなかった。
8. インストラクターに受講中の写真撮影の許可を得て、写真撮影を行った後、ブログへUPする準備を整えた。
9. 終了時、機材の消毒を実施した。

実習コーディネーター(2019年4月1日～継続中)

1. COVID19禍における臨地実習が可能であるかを、実習病院へ必要時メールにて確認を行った。
2. 各論実習前のオリエンテーション運営(第1回・第2回)と、「個人情報取り扱いとSNS利用について」スライドを用いて説明した。さらに、手指消毒液やポシエット、フェイスシールドの配布。
3. 2021年度の実習病院(2病院)の実習配置を作成し調整(他大学)後、病院へ提出。

キャンパスハラスメント相談員 (2019年4月1日～継続中)

- 4月の学年別オリエンテーションでメールアドレスを公開し、常に相談を受け付けている。